

# 機械力に応じた低コスト作業システム構築の取り組み

## 背景

道林務課、道森林室、森林管理署の3者による打合せ及び担当者レベルでの打合せを踏まえた現状

- ①列状間伐は、民有林でも実施されており抵抗感はない。
- ②高性能林業機械の導入は、徐々にではあるが進んできている。
- ③搬出間伐を始めたのが最近であり、高性能林業機械が効率的に活用されていなかったり、使用に慣れていない。
- ④コスト意識は高いとは言えない。

## 平成26年度の取組実績

### ①森林組合等45名が参加して国有林の間伐実行現場見学会を開催

- ・作業工程見直しのキッカケに。

### ②民有林3事業体の作業システム・工期調査を実施

- ・調査にあたっては事業体の理解を得ることが重要。

### ③事業体の作業工程分析、工期比較、改善点を盛り込んだ「診断書」を作成し、国有林を含めた4事業体に対し説明・提案

- ・改善できる点のある事業体が多い現状。
- ・生産性向上への意識はあるものの、経験値によるおおまかな数量の把握が主体。
- ・工程別の管理を行っていないため、無駄の排除に至っていない。



ここに着目し、次のステップへ！

## 将来目標

低コスト作業システムの普及啓発により儲かる林業を目に見える形で提示することにより、森林所有者・市町村担当者・森林組合等の森林整備への意欲向上を図り搬出間伐を促進させる。